

第六次福井市総合計画（答申案）に対する市民意見

	意見	回答
1	<p>現在の第五次福井市総合計画の中では基本理念として「協働」をかかげ、まちづくりを進めています。今回の案の中では「基本目標」の「みんなで作る住みよい都市」で初めて「協働」が表現されているにすぎず、その説明もありません。さらに、その後の案の中での使用も極めて限定的なものとなっています。</p> <p>そこで序論「2 福井市を取り巻く社会状況」の中で、政府も提唱している「(仮)新しい公共の推進」を新しく項目として設け、その中で「協働」の概念の説明を加え、今後の行政運営全般に「協働」の概念を根底に置く姿勢を表したほうが良いのではないのでしょうか。</p>	<p>「2 福井市を取り巻く社会状況」はあくまでも社会状況の現状説明なので、「1 計画策定の趣旨と役割」と「3 基本的考え方」の箇所でも「協働」についての概念の説明を加えました。</p>
2	<p>2 福井市を取り巻く社会状況 (6)地域コミュニティの希薄化 福井市における地域コミュニティの現状説明が弱いのではないのでしょうか。また、地域コミュニティ＝自治会ならばその説明が必要だと思います。</p>	<p>福井市における地域コミュニティの現状説明を追加しました。</p>
3	<p>市民意識調査結果は資料として巻末で記載し、ここでは、意識調査分析の結果導かれることを福井の特色で記載する方が分かりやすくなるのではないのでしょうか。</p>	<p>意識調査を巻末の資料に掲載することも検討しましたが、序論で福井市民の意識を掲載することで、市民の皆さんはこのように思っている、感じているということを理解していただくため、そのまま第1章に載せております。</p>
4	<p>P12 3列目「都市化の進行による地域コミュニティの希薄化」という表現と、P5の3行目「過疎化の進行などにより～地域コミュニティの希薄化」の表現は矛盾している。</p>	<p>P5の記述を都市化に統一しました。</p>
5	<p>将来都市像について 定住している人にとって「かえりたくなるまち」の意味はどのようなものがあるのでしょうか？市民の共通概念として違和感があるように感じます。</p>	<p>定住している人にとっては確かに違和感がある言葉ですが、定住している人でも、旅先などで福井に対する郷愁を思い起こしたり、ここにずっと住んでいたい、転居したいとは思わない、という気持ちになるという意味を持たせています。</p>
6	<p>「^{まち}都市」は「かえりたくなる^{まち}まち」との統一感を出すため、「まち」に統一してはどうか。 また、政策の「都市」も併せて「まち」に統一してはどうか。</p>	<p>基本目標と政策の「都市」を「まち」に統一しました。</p>

	意見	回答
7	P20 2行目「市民活動団体」とP24の2行目「市民組織」は表現を統一してはどうか。	市民組織に表現を統一しました。
8	各論のところですが、「基本目標、政策、政策の方向性、施策」で1ページとし、「現状・課題」は資料編として別に記載した方が見やすいし分かりやすいと思います。	現状と課題は、施策の方向性を位置付けるためそのまま記載することにしました。
9	P34 これまでの案の記述では協働という言葉がでてこなかったが、ここで「市民協働による」と唐突に「市民協働」が使われている。序論や本論の箇所では協働について定義付けや説明がないのでわかりにくい印象がある。	「第2章 3 基本的考え」の箇所及び「計画策定の趣旨と役割」において協働についての記述を追加しました。
10	P60 1行目「すべての主体と」との記述があるが主体の説明が全くない。主体の説明を序論か本論ですべきではないのか。	記述を主体という表現がないように修正しました。
11	「2 福井市を取り巻く社会状況」と「3 福井市の特色・現状」にある図表に最新の年度が入っていないので、最新版に直した方が良いのではないのでしょうか。	国勢調査の速報が出るなど、最新の情報がでた場合には修正していきます。
12	現状・課題で捉えるべき事柄は、施策で打ち出す内容と区別すべきであると考えます。「～の整備が求められる。」といった表現が多いが、「～の整備」は、具体の施策の内容であり、現状・課題で使用することは適切でないと思う。	現状と課題で「整備」の使用が適切でないと思われる箇所は修正しました。
13	基本目標「みんなが生き生きと働く都市」の政策がすべて”〇〇都市をつくる”となっており他の政策の記述と異なっている。”〇〇な都市をつくる”に統一すべきである。 例えば、「活力と魅力あふれる商工業の盛んな都市をつくる」 「福井の魅力を発信し観光で賑う都市をつくる」 「魅力ある豊かな農林水産業に恵まれた都市をつくる」 などのように統一感のあるタイトルにすべきである。	タイトルを〇〇な都市(まち)をつくるに統一しました。

	意見	回答
14	<p>政策「歴史や文化を活かした個性的で魅力ある都市をつくる」 施策「文化芸術活動の担い手育成を支援する」と「文化芸術活動の交流と発信を促進する」 この施策のタイトルだけ表現が細かく、他の施策とバランスがとれていないように感じます。2つの施策をまとめるなどして施策を修正した方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>他の政策の箇所でも施策のバランスが異なるところはあります。この施策も全く同じ施策というわけではありませんので、そのまま記載しております。</p>
15	<p>施策「安全で安心な消費生活がおくることができるようにする」 この施策が「誰もが尊重される住みよい都市をつくる」という政策の中に入っているのが違和感を感じます。 この施策が市民が不安なく暮らしていくことを表しているのであれば「事故・災害などに強い安全・安心な都市をつくる」という政策の中に入れた方が、まだ違和感が少ないように感じます。</p>	<p>確かに会わない部分もありますが、政策「事故・災害などに強い安全・安心な都市をつくる」では、どちらかというハード整備が主あり、違和感がありますので、そのまま記載することとしました。</p>
16	<p>この計画書の冒頭では、急激な社会状況の変化、特に、人口減少社会が明示されており、その中で、誰もが、行きたい、住みたいと感じられるまちづくりを目指しています。しかし、いまだかつて、経験していない人口減少社会に対する危機意識が全く感じられない計画に思えてなりません。もちろん希望を持たなければなりません、そのためには、将来を見据えてほしいと思います。 例えば、人口減少により、社会的インフラ維持の負担増大はどうするの？生活を支えるサービス面の低下は(地域からの商業施設や公共交通機関がなくなるなど)？あるいは、空き家の増加による防犯は？など色々な問題が出てきつつあります。 そういう人口減少社会に対し、従来とは違う対処・施策がなくてはなりません。その新しい対策・施策を市民とともに探っていくという姿勢をぜひこの計画に盛り込んでください。このままでは絵に描いた餅になってしまいます。ただ人口減少社会では、高度成長期に無計画に拡大した都市に自然環境を取り戻し、景観を配慮した都市創りが出来るという大きな望みもあります。 このように激しく変化する社会情勢の中でいかに良い方向に持っていくかを市民とともに考えようという正直な計画であってほしいと思います。</p>	<p>市民と共にまちづくりの施策を協働していくことについては、「計画策定の趣旨と役割」と第2章で「協働」についての説明を記載することとしました。</p>
17	<p>P28「助かる命を助ける」の表現に違和感があります。何か、助からない命は始めから助けないというふうな受取られてしまう表現ではないのでしょうか。</p>	<p>政策の文章中の記述は「市民の生命や財産を守る」に変更しました。現状と課題の方の「助かる命を助ける」はそのような言い回しがあるということで記載どおりにしました。</p>